

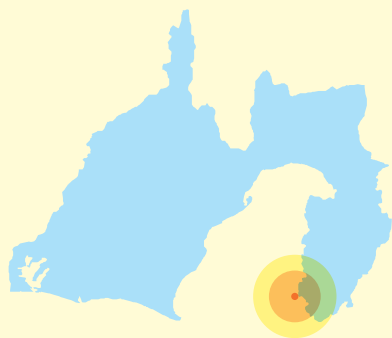
●南伊豆伊浜藻場保全協議会

代表 高野 譲

〒415-0153 賀茂郡南伊豆町手石 877-17 tel.0558-62-2804

主な構成員（人数）：漁業者 45 名、漁業者以外 23 名 計 68 名

関係市町：南伊豆町 ※静岡県漁港建設協会・(株)鉄組潜水工業所



●活動地域

2024年現在、伊浜地区は登録漁船17隻、漁獲量0.6t、生産高3百万円の小さな漁村です。周辺は風光明媚な景勝地で最盛期には40軒あった民宿も現在1軒のみとなっている高齢化の進んだ限界集落です。主力魚種はイセエビですが、かつて周辺に密生していたカジメが磯焼けにより消滅したことから、当時主力だったアワビやサザエは全く採れない状況となっています。

●協定面積 6ha

対象種の紹介

カジメの特徴：コンブ目、水深2～10mの岩礁の上に群落を形成する。食用ではなく主にアルギン酸の原料となります。アワビなどの餌、魚類の生育の場となり沿岸漁業や海の環境上も重要です。

対象種の分布・生育状況

2年前まではカジメは港外では夏場に枯死してしまいましたが港内には一年中生育しており、春には船底にびっしり生えた幼体を利用していましたが、昨年は港内でもほとんどなくなり船底に幼体がない状態となり伊豆東海岸の漁港から幼体を採取しました。しかし今年度は東海岸でも幼体なくなり、やむなく相良漁港で幼体及び母藻を採取して活動を行いました。このように近年伊豆半島はカジメの生育は非常に厳しい状況です。



■相良港沖のカジメ(種苗、母藻供給源) ■伊浜港内の様子(カジメは見られない)

保全活動の必要性

伊浜地区はカジメの分布の南限に近く、移植を1971年頃から数度行う事により、粗密を繰り返してきたが、今世紀初頭からの磯焼けによりカジメはほぼ壊滅し現在に至っています。漁業者が高齢化し後継者もなくカジメ場の保全が困難なため、地域の力を結集してカジメ場の保全の必要性がります。

これまでの活動成果

これまでの活動で一時は港外のカジメはなくなっても、港内は一年中残っていてこれを港外に徐々に展開しようと考えていたところ、2年前から港内にもほとんど生育しなくなるばかりか、伊豆半島の近隣の漁港も生育が思わしくない状況となった。今年度は旺盛に繁殖している相良港沖のカジメを漁協協力で幼体や母藻を手に入れる事ができた。しかしここも秋にはほとんど枯死していたため来年度は採取できるか判りません。

今後の活動指針

●保全活動の目標

地道にこれまでのような活動を続けていくには、幼体や母藻を採取する必要があるため、県内外の情報をしっかり集めて確保に努めたい。また、専門家の智恵を借りてカジメに代わる高温に強い代替の品種を検討する必要があります。

